

「備北商工会地区」景気動向分析レポート

《調査目的》

「伴走型小規模事業者支援推進事業」の一環として管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施し、その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対してへ景気情報として提供するものです。

《調査概要》

対象期間：2022年4月～6月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

管内の産業全体景況は令和4年1～3月の景況と比べると悪化。新型コロナウイルスによる行動制限の緩和されたが、コロナ禍による外出しない生活により管内の客足が遠くなっており、市外客中心の事業所は厳しい状況が続いている。加えて原油・原材料の高騰など物価の上昇により採算・資金繰りの悪化が見られる結果となった。

【製造業】

新型コロナウイルスによる行動規制の緩和で消費活動が上昇したことにより、管内の食料品製造業においては売上が戻ってきたが、食料品以外の製造業は、ウッドショック・ウクライナ情勢・円安の影響による仕入材料費の高騰により収益の悪化がみられる。それに対して価格に転嫁しきれていないため、採算の悪化が進んでいる。

【建設業】

豪雨災害の公共事業を中心に受注が堅実であるも、人手不足、資材・燃料等の価格高騰で採算が採れない状況が続いている。加えて建築資材などの入手困難による工期の延長、それに伴う売上入金の遅れにより資金繰りが悪化している。

【小売業】

新型コロナウイルスによる規制緩和により消費活動が上昇し、広島県全体では売上が増加した。管内では人口の自然減が背景にあり、加えてコロナ禍での外出しない生活に慣れ、規制緩和による消費活動上昇の恩恵が実感しにくくなっている。しかし、生活必需品の購入や「な・み・か」のポイントセールの利用など客足は戻り新型コロナウイルスによる影響はそれほど受けていないと思われる。ただ、仕入価格の高騰が大きく、利益は減少している。

【サービス業】

サービス業全般は新型コロナウイルスによる規制緩和により昨年と比べると客数が戻ってきた印象。一方で、コロナ禍での外出自粛が当たり前になり管内の飲食業・美容業等、地元客を中心の事業所は厳しい状況が続いている。加えて仕入価格の上昇が圧迫しており、我慢の経営が続いていると思われる。

産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ
(前期) (今期)

	R4.1～3	R4.4～6	前期との比較
備北	-33.3	-38.5	↘
広島県	-38.6	-16.2	↗

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス(+)なら……………強気(楽観)、上昇機運
DIがマイナス(-)なら……………弱気(悲観)、低下機運

広島県の主要景況項目の推移(前年同期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.1～3	R4.4～6	前期との比較
	売上額	-11.6	8.9	↗
	原材料仕入単価	71.4	76.7	↗
	採算	-39.6	-18.2	↗
	資金繰り	-14.2	-13.7	↗

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.1～3	R4.4～6	前期との比較
	売上額	-39.1	-27.2	↗
	商品仕入単価	56.5	68.6	↗
	採算	-47.9	-37.7	↗
	資金繰り	-29.0	-27.5	↗

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.1～3	R4.4～6	前期との比較
	売上額(完成工事額)	-24.4	-24.0	↗
	材料仕入単価	64.5	78.2	↗
	採算	-30.5	-29.7	↗
	資金繰り	-17.8	-19.2	↘

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.1～3	R4.4～6	前期との比較
	売上額	-50.0	-5.9	↗
	材料等仕入単価	32.3	62.1	↗
	採算	-45.9	-33.3	↗
	資金繰り	-30.0	-13.8	↗